

出題の意図（問題1）

一般の読者を想定して書かれている社会科学の文献を、細かな知識の有無に惑わされず、全体の論旨を正確に把握できるかについて、確認することを意図している。この文章の題材は、社会科学研究に欠かせない「比較」という視点である。何を比較しようとしているのか、正確な比較のためには何が必要か、比較の結果何が明らかにされるのか、そのことはいかなる意義をもつのか、といったことがわかりやすく整理されている。大阪大学に入学する学生には、この水準の文献を理解できる素養を身につけておいてほしい。

問1 いずれの漢字も、原著にはルビは振られていない。したがって、一般向けに書かれている本書は、この水準の漢字を読めることが前提と見なされていると判断できる。

問2 厳密な比較を行うためには、どういった条件を整える必要があるのかを、本文に即して、具体的かつ正確に説明できるかをみる問題である。

問3 傍線部で示された箇所のニュアンスをくみとり、その内容を本文中の例や言葉を用いてきちんと説明できるかを問う問題である。

問4 「現代的」という言葉から、比較体制論の置かれた位置づけの時代的变化を、本文から正確に読み取れているかを確かめる問題である。

大問2 出題趣旨

本文は、野矢茂樹『哲学の謎』（講談社現代新書、1999年）から採ったものであり、とくに「行為論」などと呼ばれる分野について、一般向けに解説する内容となっている。本文で展開される論旨は、極めて論理的であり、本問は、受験生が、論理的な文章を丁寧に読み取ることができるか、論理的な内容を自分の言葉で適切に説明できるかを問うことを意図したものである。

また、本文は哲学の謎の前で「引き裂かれる私自身をなるべくそのままの状態ですす」ために、「二人の私がかげあいが進んでいく形式」で書かれている点に特徴があり、立場の異なる「二人の私」のそれぞれの主張を整理すること、「かけあい」の中からそれぞれの立場の前提や帰結まで含めて正確に読み取ることも求めている。

問1 常用漢字の書取能力を問うものである。

問2 『『恐怖する』とは言わないけど、『意志する』とは言う』など、本文の論旨を踏まえて、適切な語句を補充することを求めている。

問3 傍線部1について、一方の「私」が、「ついていけない」ということの意味を問うものである。もう一方の「私」の、「猫の動きが単なる自然現象」だと主張をどのように評価しているかを本文の文脈に即して説明することを求めている。

問4 傍線部2について、「もやもや」することの理由を問うものである。この文脈では、「もやもや」するとは、心にわだかまりがある様子を指すが、そのようなわだかまりがどうして生じるのかを、文脈に即して説明することを求めている。

問5 傍線部3について、意志を行為の動力とすることが、行為と非行為との相違を、「説明してくれない」という意味を説明することを求めている。行為と非行為との相違を意志に求めるということはどのような意味か、両者の相違を意志に求めるとどのようなことになるかといった点を本文全体から適切に読み取ったうえで、与えられた字数の中で、適切に表現することを求めている。

Ⅲ 出題意図

出典は和歌を含む平安時代の日記文学である。基本的な古文の文法、語彙が理解できていて、文脈読解の基礎能力が身についているかを問う問題である。

問一 古文単語の知識に加えて、文脈をふまえて主語を的確に理解したうえで適切な現代語訳が出来るかを問う問題である。

問二 文脈を理解できているかを問う問題である。

問三 和歌の修辞についての基礎力を問う問題である。

問四 文脈を理解したうえで、和歌の修辞を理解して、解釈できるかを問う問題である。特に、比喩表現を適切に理解しているかを問うている。

問五 文脈をふまえて、具体的な内容を理解できているかを問う問題である。

問六 文脈を理解したうえで、和歌の詠み手の心情を理解できているかを問う問題である。とくに、比喩表現を適切に理解できているかを問うている。